

# 霊水と共に

## 「法燈(ほうとう)」とは

今から、約二千五百年前にお生まれになったお釈迦様が開かれた仏教は、インドから中国を経て、約千五百年前、日本に伝わってきました。お釈迦様の教えを、「暗闇を照らすあかり」にたとえて、「法燈」と言います。各寺院では、創建以来、代々と法燈を受け継ぎ、次の世代に引き継いでいきます。法華寺は、1439年の日隆上人の創建以来、現住職、日驗(にちけん)で三十代目になります。

この四月、日隆上人の開山忌に合わせて、副住職の真人(しんじん)が、三十一代目の法燈を継承します。お寺は、どのお寺も「宗教法人」として、社会のためにその役割を果たすという使命があります。故に、お寺そのものは、住職個人の所有物や財産でなく、住職やその家族(氏族)は、お寺を預かり、仏事で諸霊を弔うという半ば公的な役目を持っています。

発行 法華寺  
No.4  
2018.3  
河南町加納 247  
☎0721933023

法華寺の歴史をひも解きますと、古くからの歴代のお上人方のご尽力が偲ばれます。例えば、江戸初期の十三代日要上人の頃、今の石垣が積まれ堅固な土台が作られました。また、江戸中期の二十代日貫上人の頃、庫裏が建て替えられ、今のご霊水の石水槽が設置されました。また、現住職は、堂宇の整備に力を注ぎ、庫裏の新築、銅像復興、客殿や水原堂の改築など様々な事業を行いました。住職は常々「ひとえに檀信徒の皆様のご尽力の賜物であり、感謝しきりです」と述べられています。

新たに、法燈を継承する私(真人)は、まだまだ未熟、至らぬ点が多々ございますが、四月の継承式以後、懸命に励みたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



## 客殿の椅子、机について

昨今の生活様式では、床に座り食事をいただくことは、大変珍しくなっています。また、高齢の方で膝や腰に不安を抱えておられる方もおられますし、若い世代の方も正座や胡坐は苦手な方も多いようです。法要時の客殿でのお食事ですが、高い食事机(大工さんの手作り改修)と椅子をご用意できるようにしました。

安心してお使いください。また、客殿の上がりかまちの段差が高く感じられる方は、客殿勝手口を自由にお使いください。手すりもついていますのでご安心ください。

## 新しいお経本

現在、現代語訳、あらすじ付きの「お経本」を製作中です。四月以降、ご希望される檀信徒の方に、無償でお配りする予定です。お釈迦様の教えに触れていただければ、うれしく思います。



ホームページのブログ(二〇一八年一月八日)より

年始から、ご葬儀が続きまして。一つ目は九十歳の女性。ご遺族の息子さんは、母の入院後四か月、献身的に看病し、一日でも長く生きてほしいと毎日仏壇に手を合わされていました。二つ目は六十代後半の男性。急死でした。火葬場でいつまでも棺にすがる娘さんのお姿が目に残っています。「愛情が深ければ深いほど、別れが悲しい」ということでしょう。愛情は表裏一体ですね。しかし死別は世の常、「感謝と思い出」が残る親子関係なら幸いです。しかし、親子関係は、人間関係の中でも、難しい関係とされています。互いに強い感情が付きまとうからです。どの人間関係においても、相手を変えようと思うのは難しいので、まず自分が変わることです。苦手な相手には、こちらから、笑顔で接したり、親切にすることから変化が見込める場合もあります。人の悩みは、全て人間関係の悩みと言っても過言ではありません。

## 今後の行事予定です

◎四月二十一日(土)

午後七時三〇分～

日隆聖人開山忌逮夜法要

◎四月二十二日(日)

午前十一時～

法華寺 法燈継承式

※二十二日の法要式の際は、

例年どおり村内の駐車場をご

利用ください。公園までタク

シーのピストン送迎いたします。

す。



## あとがき

・住職(日驗)

ようやく春めいてきました。元気で動けるうちは、これからも、ご法務もこなしていきますよ。

・副住職(真人)

お寺の世界では六十歳でまだまだヒヨコ。私にすればあと四年ですが、とにかく日々勉強です。

・寺庭婦人(メイ)

この冬は、寒さが厳しかったので田辺大根は小ぶりでした。切り干しではなく、ぬか漬けにしたいと思います。

・寺庭婦人(早智子)

二月公開の浜田省吾さんのライブ映画に大感動しました。副住職共々大ファンです。

・徒弟(大志)

知り合いや周りの人がインフルエンザを発症する中、おかげさまで無事乗り越えました。これもお慈悲です。